令和7年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議録

- 1 開催日時
令和7年7月17日（木）
開会 午後1時30分
閉会 午後2時30分
- 2 開催場所
尾張旭市役所南庁舎3階 講堂1
- 3 出席委員
上村千尋、柳生勝也、清水まさみ、松原美保子、水野寿美代、峯村奈穂
奥山陽史、志村美栄子、朝見巳幸 9名
- 4 欠席委員
水野夏子、近藤信綱、安藤郁子、谷口礼 4名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
こども子育て部長 山本智子
こども未来課長 山本慎平
保育課長 川本英貴
保育課指導保育士 澤村桂
こども課長 塩田駒子
こども家庭課長 小久保俊幸
子育て支援センター所長 寺本暁子
保育課長補佐 西尾元伸
こども課長補佐 久野善之
こども家庭課子育て支援係長 加藤航
こども家庭課母子保健係長 上原敦子
こども家庭課こどもの発達センター係長 吉永智哉
こども未来課こども政策係長 長瀬絵里子
こども未来課こども政策係主事 竹浪琴乃
- 7 議題
第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
- 8 報告
保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について
- 9 配布資料
 - (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について資料1
 - (2) 保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について資料2

10 会議の要旨

(発言者名)	(発言内容)
<p>部長</p>	<p>皆さま、こんにちは。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から、令和7年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議を開会させていただきます。</p> <p>こども子育て部長の山本です。</p> <p>昨年度まで、こども未来課長として出席しておりましたが、今年度よりこども子育て部長に就任いたしました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日は、令和7年度の第1回目の会議でございます。</p> <p>委員の所属団体等における人事異動又は役員改選に伴いまして、当会議委員も新旧交代された方がございますので、担当からお知らせさせていただきます。</p>
<p>事務局 (こども未来課係長)</p>	<p>では、担当からご報告させていただきます。</p> <p>まずは、前回会議をもちまして退任された委員の方です。</p> <p>尾張旭市小中学校PTA連絡協議会の弘島 朋子委員 愛知県瀬戸保健所の岡元 洋子委員</p> <p>以上、2名の方が退任となりました。</p> <p>次に、新たに委員となられた方をご紹介します。</p> <p>尾張旭市小中学校PTA連絡協議会から柳生 勝也委員 愛知県瀬戸保健所から峯村 奈穂委員</p> <p>が新たに委員となりました。</p> <p>在任委員の方のご紹介につきましては、机上の名簿をもって代えさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>続きまして、本年度の子ども・子育て会議事務局を紹介いたします。本年度の組織改編及び人事異動に伴い、新たに事務局職員となった職員をご紹介します。</p> <p>新たに事務局職員となりました、</p> <p>こども未来課長 山本 慎平 保育課指導保育士 澤村 桂 こども家庭課長 小久保 俊幸 子育て支援センター所長 寺本 暁子 こども家庭課子育て支援係長 加藤 航 こども家庭課母子保健係長 上原 敦子 こどもの発達センター係長 吉永 智哉 こども未来課主事 竹浪 琴乃</p>

	<p>以上の8名でございますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、昨年度から継続の事務局職員の紹介につきましては、机上の名簿をもって代えさせていただきます。</p> <p>それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前にお送りした資料として、次第が1枚、右肩に資料1とあります「第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」が1枚、A3両面刷りになっております「第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画進捗状況確認調書」が1部、右肩に資料2とあります「保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について」が1枚。本日机上にご用意しておりますのが、委員名簿1枚、座席表1枚です。</p> <p>不足しているものはありませんでしょうか。</p> <p>なお、第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画の冊子について、事務局でご用意しておりますので、本日お手元のない方がいらっしゃいましたらお渡しします。説明は以上です。</p>
<p>部長</p>	<p>それでは、欠席委員について報告させていただきます。</p> <p>水野夏子委員、近藤委員、谷口委員、安藤委員の4名から本日の会議を欠席される旨の連絡がございました。</p> <p>本日の出席委員は、9名でございますので、過半数の出席をいただいております。従いまして、本会議条例第6条第2項の規定による定足数に達しております。</p> <p>なお、この会議は公開しておりますので、会議の傍聴席を設けてございます。また、会議録を作成し、市ホームページ等で公表をしておりますので、委員の皆さまにはご了承いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、以降の会議の進行につきましては、議長であります上村会長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、これより、私が会議を進めてまいりますので、委員の皆さまよろしくお願いいたします。</p> <p>令和7年度新年度の子ども・子育て会議がスタートいたしました。委員の方の交代、それから市役所の皆さまの交代がありました。子ども・子育て会議でこれから新たな計画をいかにより良いものに進めていくか、その進捗状況等をこの委員会の中でしっかり議論をして改善に向けて検討していく、そのような大事な年度がこの令和7年度だと思っております。どうぞ皆さまよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議につきましては、事前に配布いたしております次第に従い進めさせていただきます。</p>

	<p>それでは早速、議題に入ってまいりたいと思います。</p> <p>議題は「第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」でございます。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (こども未来課係長)</p>	<p>説明させていただきます。</p> <p>お手元に、資料1と「第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画進捗状況確認調書」をご用意ください。</p> <p>では、資料1をご覧ください。</p> <p>本計画は、「1 各事業の評価の方法」 最初の四角で囲っております「みんなで支えあう すべての子どもがすくすくのびのび育ち、子育てしやすいまち 尾張旭」を基本理念とし、その実現に向け6つの基本目標を掲げております。それがその下の四角で囲っている6項目になります。</p> <p>この基本目標を達成するため、子ども・子育て関連事業ごとに達成度合いを図るための指標を135項目設定しています。</p> <p>この指標について、直近の実績値と目標値を比較し、計画の進捗状況を管理します。</p> <p>この第2期計画の計画期間は、令和2年度から令和6年度までとなっておりますので、今回の令和6年度の進捗状況が計画最終年度の結果となります。</p> <p>では、今年度の評価結果について説明いたします。</p> <p>「2 今年度の評価結果について」をご覧ください。</p> <p>令和6年度実績値と目標値の比較による評価結果が、中央の表のとおりとなります。</p> <p>評価基準は四角で囲ってある中に記載しているとおり、◎が「目標値に達している」、○は「このままいけば達成できる」、△は「努力が必要である」、×が「目標値に達していない」、一が「目標値なし」となります。</p> <p>表の見方ですが、一番左が、評価欄、その右に評価ごとの令和6年度の事業数、その右に参考値として前年度、令和5年度の事業数を記載しています。そしてその右に6つの基本目標ごとの事業数を評価ごとに記載してあります。</p> <p>先ほど申し上げましたとおり、今回が計画期間の最終年度となりますので、評価のうち、○の「このままいけば達成できる」と△の「努力が必要である」の評価はなく、◎の「目標値に達している」、×の「目標値に達していない」、一の「目標値なし」のいずれかになっています。</p> <p>評価の◎「目標値に達している」は、令和6年度は65事業で、</p>

計画全体の5割程度となりました。

前年度、○や△の評価だった事業が、目標値に届かなかったため、×の評価となった事業が大幅に増えておりますが、これらの事業のうち2割程度は、計画期間中に事業内容の変更があり、指標となる数値にも変更が生じた結果、達成し得なくなったものや、目標値が利用希望者数に応じたサービス提供を目指す指標であり、その数の増減が事業評価に直結するわけではないものも含まれています。

また、×の評価となった事業のうち1割程度は、第3期計画となる「こども計画」の計画期間である令和7年度から令和11年度の前半、令和7もしくは8年度での達成が見込まれている事業となります。

では、基本目標ごとに事業の進捗状況を確認していきます。

ここで、お手元の資料のうち、「第2期尾張旭市子ども・子育て支援事業計画進捗状況確認調書」もご覧いただきながら説明いたします。

基本目標1「子どもの教育・保育環境の充実」では、12の事業で評価が×となっています。

このうち、確認調書1ページの2項目め、「サポート保育の推進」については、目標値13園に対して、実績が12園となりましたが、令和8年度開所予定の新規保育所にて実施できるよう調整予定です。

その下の「一時保育の充実」についても、目標値7園に対して実績5園ですが、令和8年度以降、新規保育所での実施を調整予定です。

その下の「保育環境の改善・充実」について、公立保育所施設の老朽化に伴う建替えや大規模改修等については目標達成に至っていませんが、休憩室や床の改修など必要に応じた整備を適宜実施しております。

続いて、確認調書3ページの下から2項目め、「不登校・いじめ等への対応」については、前年度より発生率が微減したものの、目標値には届いていません。

令和6年度は東中学校の校内に教育支援ルームを整備し、令和7年度には全中学校に整備できる予定です。これまで、適応指導教室として不登校児童の教室復帰を目指していましたが、令和6年度からは教育支援ルームとして、こどもたちの居場所となることを目的として取り組んでいます。

次に、基本目標2「地域における子育て支援の充実と安全の確

保」では、27の事業で評価が×となっています。

このうち、確認調書6ページの4項目め、「児童・学童クラブの充実」については、令和7年度で定員、支援箇所数ともに増加しています。

続いて8ページの5項目め、「家庭教育の推進」について、家庭教育学級生の人数が目標値380人に対して実績153人と、昨年度に比べて大きく減少しています。令和5年度までは年度当初に家庭教育学級生の登録を依頼し、登録者だけに家庭教育学級の開催を周知していたものを、令和6年度は、その登録を任意とし、すべての小学生保護者に対して家庭教育学級の開催周知をする形に変更したもので、家庭教育学級への参加者数としては減少しているものではありません。

同じ8ページの一番下の項目、「親の育児責任の醸成」について、パパママ教室の参加割合は目標値55%に対して実績45.8%と目標値には届きませんでした。対象者の希望を踏まえ、オンラインではなく対面方式で開催したり、内容にワークを取り入れたりとブラッシュアップし、計画期間中で最も多い参加割合となりました。

続いて9ページの4項目め、「防犯灯設置における地域支援事業の推進」について、目標値7200灯に対して実績5944灯で、地元からの要望を受けて設置補助するものになるため、令和6年度については数の増減はありませんでした。

その2つ下、「交通安全教室の実施」について、目標値70に対して実績23となっていますが、令和6年度は開催方法の変更に伴い、回数が減少しています。こちらは、全小中学校と公立保育所、私立保育所を対象としているものです。

基本目標3「配慮を要する子ども・家庭への支援」については、5つの事業で×の評価となりました。

事業の利用希望者や対象者が少なかったため、目標値に届かなかったものがほとんどでした。

基本目標4「親と子の健康の確保及び増進」については、5つの事業で×の評価となりました。

確認調書15ページの3項目め、「思春期家庭教育学級の推進」について、目標値には届きませんでした。オンライン受講を取り入れたり、周知対象を拡大したりして、昨年度より受講者が増えました。

基本目標5「子育てと仕事の両立支援」、基本目標6「子どもの権利擁護」については×の評価となった項目はありませんでした。

	<p>た。</p> <p>基本目標ごとの進捗状況の説明は以上となります。</p> <p>なお、この結果については市ホームページで公表を予定しております。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p>
会長	<p>ただ今の事務局の説明について、質問などあればお願いします。</p>
志村委員	<p>こどもの不登校・いじめについて気になっているのですが、旭中学校に続き、東中学校にも教育支援ルームを設置して、教室復帰を求めず生徒の居場所づくりに重点を置く取り組みはどんな風に効果があったか、良かった点がありましたら教えていただきたいです。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>担当課に確認をした中では、旭中学校と東中学校と今年度中に西中学校で整備をしていきますということと、実際どれくらいの生徒が利用しているかについては、今回確認はできていないんですけど、今までの取り組みの「何とか学校に復帰させる」ということではなくて、「教室に復帰できなくてもこどもたちの居場所を確保していく」という方向性に変えて活動しているということは確認できております。</p>
志村委員	<p>時々市の子ども・子育てに関係する係の人たちが様子を見に行くことはあるのですか。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>利用状況については、当然現場の方で確認していると思うんですけど、頻度やどんな立場の先生がということまでは確認はできておりません。</p>
志村委員	<p>計画を立てることはとてもいいことではあるし、それに沿って実行されていることも分かっていますが、様子がどんな風か、設置してよかったなという感触を持たれたのかな、ということでお聞きしました。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>計画に掲載している事業になりますので、そういったことも事務局として確認できる範囲の確認はしていきたいなと思います。</p>
志村委員	<p>居場所づくりに必要性を感じている、大事だと思ってらっしゃるということですか。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>教育委員会でもこどもたちの居場所の確保というのは、全てのこどもたちに対してということに取り組んでいると聞いていますので、重要視しているということになると思います。</p>
志村委員	<p>不登校は残念だなと思うので、何かいい方法はないかなと思ったので伺いました。</p>

<p>部長</p>	<p>補足させていただきます。効果というお話が出たので、昨日別の会議で教育委員会の先生と同席した時に、ちょうど不登校の話が出まして、効果という意味では、実績値を見ていただきますと、不登校児童の発生率が令和3年度、4年度、5年度と増えていたところ、令和6年度は下がっています。不登校生徒発生率も令和3年度、4年度、5年度と伸びていますが、令和6年度は下がっています。教育支援ルームを設置したところで効果が出ているのではと教育委員会の方で言うておりましたので、効果という意味では数字にも表れているのかなと思います。</p>
<p>志村委員</p>	<p>皆さんの知恵で、いい方法はないのかなと思います。せつかくこどもが社会性を身に付けたり、いろんな人生の出会いはどこにあるかわからないのでね、それを感じているんですね。</p> <p>それから、子ども・子育て会議で、子育てだけでなく、若者も支援する仕組みが大事だと上村先生が仰っていたのがその通りだなと思いましたので、そちらの方にも目を向けなければならないなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>近況等も含めて教育委員会からのご報告もありましたけれど、本当に居場所づくりというのは、家庭にも居場所がない、学校に居場所がないということで、サードプレイスを地域のどこか別のところに作るというのがスタートはしましたけれども、今この取り組みの大事なところは、場所だけではなく人とのつながりを絶やさないという意味でも学校の中に支援ルームを作っているという、同じサードプレイスではあるけれども、学校という拠点の中に作るということによって、教室の中には入れないけれども、学校というところにつながり、学校にいるこどもとのつながりを絶やさない、そういう意味でも非常に良い取り組みだと思います。そして、今後、発生率だけでなく、こういった形でこどもたちに良い影響があるのかは、これを継続していくことで見えてくる部分もあるのではないかという風に思いました。</p> <p>この度、6つの大きな基本目標という柱を立てて、細かい小項目の中で一つ一つ丁寧に具体的な事業名、内容があり、計画期間が2020年から2024年ということで、そこを踏まえた基準値、平成30年から継続的なデータが載っています。お話としては昨年度と今年度の比較というところですか、評価というところに着眼点がありますが、いただいている資料からそういった動向も見えてくると思いますので、是非委員の方々、それぞれのご専門やお立場からご意見等いただければと思います。よろしくお</p>

	願いたします。
清水委員	<p>11ページ目の上から3つ目の「発達が気になる子どもへの支援」なんですけれども、「こどもの発達センターの専門職が、随時、発達の気になる子とその保護者の相談に対応したうえで、保健・福祉・保育・教育等の関係機関と連携を取り、個々の子の特性に合わせた支援を実施した。」という風にあって、小学校とかに少しお手伝いに入っていた時に、発達が気になる、もしかしたらディスレクシアかなと思えるお子さんがいたときに、ちょっと気になるんですけど先生に言ったときに、保護者がこれで良いと言ってしまうと、なかなか支援につながらない、地域福祉課につながらない、そこで止まっているように私には見えて、保護者がこれで良いって言ったからって止まって言い訳はないという風に私は思ってしまうので、そういうのはどれくらい福祉に、例えば、保護者と1か月先生方が交渉して、それでも改善が見られない時には、地域福祉課の専門職の人が入るみたいな、そういったことというのはあるんでしょうか。</p>
事務局（こどもの発達センター係長）	<p>少し視点が違うかもしれませんが、お答えさせていただきます。実際、保護者の方と学校の中のやり取りになってしまうと、そこから発達センターにどれだけの件数あがってきているのかというところは分からないところがあるんですけども、学校でも保護者の方と個人懇談などを通じてお話しする中で、継続した形で先生とのやり取りの中で、発達センターに情報が来ることがありますので、そういったところでは対応しているのかなというふうに思っています。</p>
清水委員	<p>情報が伝わっている部分もあるんだろうなということは分かるんですが、どうも学校と福祉が結構離れているイメージがあって、もっと当たり前のように学校の中に福祉の方が入って、勉強や指導要領の部分は先生に対応いただいて、その家庭や親の理解度の低さとかが結構あったりすると思うので、そういう時に福祉の方が入ってもらえると良いなと。学校がここは福祉に連絡しないといけないと思うのと、私が見たここは福祉の方に連絡してほしいなと思う基準が、先生方と自分とでだいぶずれている感じがあったので、もう少し学校に福祉の方が入るようなシステムがあったら良いなと思っています。</p>
部長	<p>発達センターの中には、教員もおりますので、教員がどんなふうに学校に支援しているか少し説明をさせていただきます。</p>
事務局（こどもの発達センター係長）	<p>発達センターの中に専門職として教員職がおりますので、その方が学校の先生とも随時連絡は取り合っておりますので、その中</p>

	<p>で問題のあった子がいれば実際に発達センターの教員が学校現場に行って話を伺ったりとか対応の仕方などを相談しているところでございます。</p>
会長	<p>現状では、発達センターと教育の現場が連携を図っているということで、でも清水委員のご意見としては、やはり、配慮が必要だとか特別な支援が必要だという自分のニーズをこども自身が伝えるというのは、特に年齢が低ければ特性によっては難しくなってくる、だからこそ、こどもだけじゃなくて親からのニーズだけではなく、現場と連携を図ってニーズを発掘していく、つなげていくっていう仕組みが重要ではないか、求められるのではないかというご意見というふうに私は受け止めました。</p>
志村委員	<p>賛成です。その通りだと思います。</p>
朝見委員	<p>児童館の運営についてですけれども、確か先月の朝日新聞だったかと思うんですけれども、児童というのは児童福祉法では18歳までだということで、東京の池袋だと思うんですが、中高生向けの児童館を運営されていて、とてもいろいろな面で、居場所としても、相談場所としても効果を上げているというような記事が何日かにわたって掲載されたのを拝読させていただいたんですけれども、やはり今後は中高生の居場所として、新しく児童館を建てるというのはもちろん難しいかと思うんですけれども、児童館という場所が結構尾張旭は未就園児さんの場所というか、そういう方々が多く午前中は通っていて、子育て支援センターというのが尾張旭はとても充実していて、保育園などにも開設していて、小さいお子さんのことで相談したり、行く場所はあるかと思うんですけれども、中高生の本人や保護者の方が相談する場所が少ないかなと思いますので、児童という名称は18歳未満の全てを含むということを皆さんに認識していただけたら良いかなというふうに思っております。</p>
会長	<p>尾張旭の児童館もいろいろな取組をされていると思うんですけれども、今のところに関して何かご説明いただけますでしょうか。</p>
事務局(こども課長)	<p>昨年白鳳児童館で第2と第4の水曜日に中学生は19時まで、高校生は20時までということで、中高生の居場所ということで始めさせていただきまして、その実績を含め、今年は、市の真ん中にある中部児童館で、隔週だとこどもたちの感覚が分からないという話になって、今は毎週木曜日に中学生も高校生も19時までということで開館をさせていただいています。ただ、夏休みとか春休みとか冬休みとか長い休暇中はこどもたちが来ないとい</p>

	<p>う実績もあったので、今回は夏休みの間は開催しないんですけれども、それ以外の時期は今やらせていただいている、なるべく来ていただけるように声掛けをさせていただいています。</p>
奥山委員	<p>2点ほど教えていただきたいんですけれども、全体としては、大体半数くらいは目標値に達しているということなんですけれども、もともとの想定として大体これくらいの達成率で、想定内ということなのか、あるいは想定と比べれば下回ったあるいは上回ったという評価をされているのか、そういうのを一つ教えていただきたいのと、もう一つ、令和5年度の実績で◎が70で、6年度が65で5件ほど減っているということで、ここはどういう事情があったのか教えていただきたいです。</p>
事務局（こども未来課長）	<p>まず、1点目の全体の評価についてなんですけども、何パーセントという想定は初めからしておりませんので、これが達している達していないという具体的なものはございません。数値、割合としては135分の65ですので、決して高い数値ではないなどは思っております。</p> <p>確認調書の中でも色々おおよそ説明させていただきましたので、やってみると個々の事情があるので、なかなか100パーセントに近い数値は難しいというふうに認識しております。</p>
事務局（こども未来課係長）	<p>◎の評価の方が、5年度70に対して今年度65に下がっているというところなんですけども、具体的には、5年度にギリギリ達成していたものが、6年度に若干落ちてしまったものがあつたりですとか、最初にご説明しましたように利用者のニーズがあつて初めて提供するサービスがあるというものになると、そもそも使いたいという人がいないと、サービス提供していないということになってしまって、5年度はたまたまニーズが高かったものに対して、サービス提供ができていたけれども、6年度はそもそもニーズが少なかったため、単純に目標値と設定したものを比較したらそこには届いていなかったという結果で、5つほどこういう形で下がったということになります。</p>
会長	<p>非常にこのあたり数値だけで追っていくと難しい面が確かにありますよね。本当に明らかなニーズ調査のもとに想定される数値を目標に置いて行う事業と、一から発掘しながら、広報しつつ、周知しつつ支援につなげて、その結果利用認知につながったケースとでは内容としても評価が異なってくるかとは思いますが、今そういったご説明をいただいたことでより全体評価の見方っていうのが非常に良いものになったかと思えます。</p> <p>それでは、次第の3にうつります。</p>

	<p>報告として「保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について」でございます。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (こども未来課係長)</p>	<p>報告としまして、「保育園及び放課後児童クラブにおける入園等状況について」、資料2を用いてご説明いたします。</p> <p>項目1 保育園の入園状況をご覧ください。</p> <p>表は、令和2年度から令和7年度までの6年間の状況を記載しています。</p> <p>上から、新規の申込者数、待機児童数、待機児童が発生している3歳未満児の拡充定員数の増減を年度毎に記載しております。</p> <p>このうち、表の一番下、未満児の拡充定員数ですが、令和6年7月と令和7年4月に開園した小規模保育事業所により5人増員しております。</p> <p>表の下の<今年度の状況のまとめ>についてですが、新規申込者数は、596名でしたので、前年度より8名減少しました。待機児童数は5名で、前年度より10名の減少となっております。待機児童は、令和2年度の24名をピークに、これまで減少傾向にありましたが、令和6年度に増加に転じたことを受け、待機児童解消緊急対策として、先ほど定員拡充の内訳としてご説明しました通り、令和6年7月と令和7年4月に小規模保育事業所を開園しました。</p> <p>なお、待機児童数の内訳としましては、その下の表に示しておりますとおり、すべて1歳児となっております。</p> <p>待機児童解消対策として小規模保育事業所を2園開園しましたが、令和7年度は1歳児の申込数が増えたため、待機児童が解消されませんでした。この5名に対しては、認可外保育所もご利用いただけるよう案内を行っているところです。また、年度途中で引っ越しなどの理由で退園される方も出てきますので、調整を行っていくことになります。</p> <p>来年度は、新たに2園の保育所が開園予定ですので、定員数は大幅に増加予定です。</p> <p>次に、資料2の裏面をご覧ください。</p> <p>項目2、児童クラブ(公立)の入所状況です。</p> <p>表の構成は、保育園と同じです。放課後の児童の居場所としましては、公立の児童クラブと民間が運営する学童クラブの2つがあります。この表の数字は公立の児童クラブのみの状況となっておりますので、ご承知おきください。</p> <p>表の下の<今年度の状況のまとめ>についてですが、申込者数</p>

	<p>は726名でしたので、前年度から7名増加しています。待機児童数は令和2年度に申込者数が大幅に減少したことで0名となっていたところ、令和6年度に48名と大幅に増加し、令和7年4月から旭児童クラブで20名の定員の拡充を行いました。令和6年度から待機児童がさらに5名増加しています。</p> <p>なお、令和4年度から令和6年度までの間の待機児童については、各年度中に調整により最終的に0名となりました。</p> <p>令和7年度の待機児童の校区別内訳は、下にある表の〈待機児童数の内訳〉に記載のとおり、旭丘、本地ヶ原、三郷、旭の4小学校区で発生しております。</p> <p>待機児童増加の理由としては、区画整理や宅地開発に伴う転入により、児童数が増えたことが考えられます。</p> <p>なお、瑞鳳・本地ヶ原・渋川小学校区のこどもを対象とした、ずいほう学童クラブが令和7年4月に開園しました。</p> <p>令和7年4月の待機児童数53名については、今後年度途中の調整により変動する場合があります。</p> <p>待機となっているご家庭には、ランドセル来館のご案内をしています。</p> <p>令和7年4月1日時点の状況についての説明は以上です。</p>
会長	<p>ただ今の事務局の説明について、質問などあればお願いします。</p>
水野委員	<p>民間学童クラブとしても、待機児童解消のために最大限努力を続けている状況です。</p> <p>令和7年度は、ずいほう学童クラブを新たに開所し、令和8年度に向けては、待機児童が多く生じている、旭小学校区と旭丘小学校区で定員数を増やすため、市にも予算を立ててもらっていますので、令和8年度は、もう少し待機児童を減らせるのではないかと希望的観測を持っています。</p> <p>私たち民間学童クラブでは、市のこども課とも相談しあいながら、待機児童が解消できるような対策を継続的に取り組んでいきたいと思っております。</p>
会長	<p>公立と民間が連携を図って、具体的な対策を一つ一つ講じていくことによって解消を図りたいというご意見でした。</p>
事務局(こども課長)	<p>実際児童数は、令和6年と令和7年の5月1日の児童数で言うと66名減っているんですけども、今回の待機の人数は、民間と公立合わせて31名増加しています。利用希望率は、令和6年と令和7年の5月1日時点で、26.8%と27.9%ということで、増加しています。結局こどもの数が減っても利用したいと</p>

	<p>いうお子さんたちが増えており、ニーズが高いと言えます。ただこどもたちの年齢が上がっていくと児童クラブとか学童クラブは使わなくなってしまうので、どこまで増やすのかというところは見極めなくてはいけないところです。今実際に待機が出ているので、学童さんにはご協力をいただいて、今できるだけのことはやらせていただいております。</p>
会長	<p>具体的な数値を示しながらのご説明ありがとうございました。</p>
会長	<p>皆さま活発にご意見をいただきありがとうございました。 以上で、次第の3「報告」を終了いたします。 それでは、次第の4「その他」について、事務局から、お願いします。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>本日も活発なご意見をいただき、ありがとうございました。 委員の皆さまの任期についてですが、令和7年10月末までとなっております。次回の会議は令和8年2月頃を予定しておりますので、今任期中の会議は今回が最後となります。これまで会議委員として、ご協力くださり厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。 次期委員につきましては、今後所属団体からの推薦依頼や、公募委員の募集を進めてまいりますので、よろしく願いいたします。 事務局からの連絡は以上です。</p>
会長	<p>本日は、長時間に渡ってご議論いただきありがとうございました。事務局から説明のありましたとおり、今任期中の会議は本日が最後となりました。活発なご意見をいただき、ありがとうございました。 これをもちまして、令和7年度第1回尾張旭市子ども・子育て会議を閉会いたします。</p>